



滋賀県民を怒らせないように

「七転び八起き」と言いますが、七回転んだら七回起き上がれば十分です。八回目はどんな体勢から起き上がることを想定しているのでしょうか…。それはともかく、何回転んでも走り続けることのできる「YAOKI」という車があります。日本の企業が開発した月面探査車です。月の表面はゴツゴツした岩場や砂漠のような砂地になっていますが、この車は裏返っても再び走り出すことができるような構造になっています。この無人の車をたくさん月に送り込んで月面を探査し、地球に送られてきたデータから月にあるとされる「水」の存在について調査しようという計画があります。月の北極や南極など太陽の光が当たらない場所には、高い確率で水が存在すると言われていています。もし月に水があれば、飲み水や植物の栽培に利用するだけでなく、水から取り出した水素で発電して月での暮らしに必要な電力を供給したり、分解してできた酸素を人の呼吸に使えるようにしたりするそうです。水さえあれば月でも人は生きていけるのでしょうか。

6月からプールでの学習が始まります。昨年度は各学年2回ずつしか授業ができませんでしたでしたが今年度からはコロナの制限がなくなりましたので、しっかりと時間をかけて学習ができます。水難事故は怖いですが、水そのものは怖いものではありません。生まれたばかりの赤ちゃんを体温と同じ温度のプールに入れると、息を止めて泳ぐことができるといいます。なにせこの世に生を受ける前から、ずっと羊水の中で成長してきたわけですからね。プールでの授業をしていると、顔を水につけるのも怖がる児童がいます。露天風呂のように肩まで浸かって、みんなの泳ぎを見ているだけで今夏が終わってしまっってはもったいないですね。お風呂で、洗面器にためたお湯に顔を付けたりシャワーを顔に向けてかけたりして、少しでも練習しておくのもいいかも知れません。

空からもたくさんの水が降ってくる季節になります。一般に、雨の日を天気が「悪い」と言いますが、降る時に降ってくれないと、水不足という事態になってしまいます。地球上にはたくさんの水がありますが、97.5%は海水です。人間が飲んだり生活に使ったりする水（淡水）は2.5%しかなく、さらに淡水のほとんどは凍っていたり地中深くにあって利用できません。実際に使える水は地球全体の0.01%です。地球のすべての水の量が一般家庭のお風呂の量だとすると、手ですくった程度の水しかありません。水は貴重で大切なものなのです。決して滋賀県民を怒らせて「琵琶湖の水とめたるか」と言われないようにしましょう。



(校長 河合 康一)

【6月の予定】

- 2日（金）尿検査(未提出・再検査)
- 3日（土）体育大会
- 4日（日）体育大会予備日
- 5日（月）代休日
- 6日（火）お弁当日
- 7日（水）脊柱側わん検診(5年)
- 8日（木）歯科検診 13:30～(のぞみ・6年)
- 12日（月）朝会、歯科検診 13:30～(3年①)、6時間目無し
- 13日（火）歯科検診 9:30～(1年)
- 15日（木）耳鼻科検診(2年・4年)
- 19日（月）クラブ活動(クラブ写真撮影)
- 20日（火）プール開始、歯科検診 9:00～(2年)・13:30～(3年②)
- 22日（木）歯科検診 13:30～(5年)
- 26日（月）委員会活動
- 28日（水）6時間目無し
- 29日（木）歯科検診 13:30～(4年)



【7月の主な予定】

- 3日（月）朝会、クラブ活動
- 4日（火）～7日（金）教育相談(6時間目無し)
- 18日（火）給食終了日、13:30 下校
- 20日（木）終業式、12:00 下校

【マスクの着脱について】

4月から学校教育活動においては、マスクの着用を求めないことが基本となっています。熱中症のリスクが低い日や軽度な運動を行う場合はマスク着用を否定するものではありませんが、これからの夏の暑さを考えると、マスク着用によるリスクは日ごとに高まっていきます。熱中症予防として、特に体育大会は発表の場でもありますし、原則マスクを外して演技させようと考えています。最終的には個人の判断にはなりますが、マスク着脱について、ご家庭でもお子様と相談していただければと思います。

【加配教員や学習支援員について】

5月16日より、のぞみ学級に加配の先生が1名着任しました。のぞみ学級全体の支援をしていただいています。また、週に数回程度、学習支援員の方に来ていただいています。担任の補助として主に低学年を中心に授業に入り、児童の学習の支援をしています。また、ボランティアの方も数名、定期的に来ていただいています。多くの目で児童の学習を見守っていきたいと思います。